



平和と公正をすべての人に

「社会的排除」と「包摂」から考える

ウクライナ危機

～クラスに例えて考えてみましょう～

◆授業のねらい

戦車の砲撃で崩れるビル、迫撃砲で絶命する子ども。2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵略。民間人の多くの犠牲も生む今回のような武力による他国への侵略が起こるとは多くの人が予想し得なかった。悲惨で残酷な映像を毎日見ていると、怒りの感情が彷彿してくるのは人としてあたりまえのことだ。しかし「怒り」の感情だけでは戦争はなくなる。なぜ、こんな無益で残忍な戦争が起こってしまうのか？その要因を多面的・多角的に考察することが不可欠だ。本稿では、中学生にも理解できるようにクラスに例え寸劇風に考える。



◆授業の流れ

<登場人物>

ナレーター 先生 ウクライナさん ロシア君 イギリス君 フランスさん ドイツ君
アメリカ君 中国君 韓国さん インドさん ケニアさん 日本君

<授業方法>

- 役割分担を決め、寸劇形式で読み合う。
- ペアもしくはグループで語句や内容等の疑問点を出し合い発表する。
- 疑問点について、教師と生徒、生徒同士に対話により解決をしていく。
- 適時、「ウクライナ」「ロシア」「国際社会」の責任を問う。全体を〈10〉として、それぞれの責任を数値化する。また、そう考えた理由を交流する。
- 疑問形になっている箇所、例えば「**日本**：前向きに考えてみる。何ができるかな？」等を議論。

<留意点>

- 国名を「さん」「君」と呼称しているが、中学生の日常の会話を想定している。
- 国名をあげ「セリフ」を紹介している。国際情勢に沿った内容ではあるが、それぞれの国が語る「セリフ」は脚色されたものであることには配慮して指導する必要がある。
- クラスを想定した内容でありイメージが浮かびやすいが、脚色された場面をふくめ、項目ごとに「疑問」をシェアし、随時、質問時間を設けることが不可欠である。
- 授業は、5月6日（金）に立命館大学「地理・歴史教育概論」受講学生 25名を対象に実施したものである。

ナレーター：クラスでロシア君がウクライナ君にすごい暴力をふるっています。それもウクライナ君の机を壊したり、殴るケースもあります。クラスのみならず、特に学級委員長のアメリカ君や国連先生も困っています。

ロシア：(ひとりごと) ウクライナとは、キーウ幼稚園の時代から同じ仲間だし、小学校の時も同じグループだったのに、最近は NATO グループに入ろうとしている。僕らのグループは 5 人だけになり、信頼できるのはベラルーシさんだけ。

ウクライナ：(ひとりごと) ロシア君は暴力で抑えようとするからいやだ。チェチェン君、ジョージアさん、最悪は、僕らのグループだったクリミアさんを無理やり自分たちのグループに引き入れた。

ロシア：ウクライナ！お前が悪いんだ！お前らのグループに嫌々入っていた俺たちの仲間【親ロシア派】へのいじめがきっかけでトラブルが始まった。その人たちとも仲良くしてもいいって約束したのに、暴力でそれを許さなかったじゃないか！【ミンスク合意】

ウクライナ：ロシア！要は適当な理由をつけて、僕とベラルーシさんを支配しようとしているだけでは？ロシア君といっしょにいると自由にものも言えないんだよね。

先生：ロシア君のウクライナさんへの暴力は明らかに学校の決まり【国際法】違反だ。この大喧嘩は 8 年前のクリミアさんとのトラブルからだ。ウクライナが反ロシアになり、その時双方が、「これはジェノサイドだ」と主張し、EU はじめみんなが無視したことが今に繋がっている。

＜グループ討議＞（6グループ）

今回の「ウクライナ危機」について「ウクライナ」「ロシア」「国際社会」の責任をどう考えますか？全体を〈10〉として、それぞれの責任を数値化しなさい。

また、そう考えた理由を交流しよう。

*多くのグループが「ロシアの責任」に〈6〉～〈8〉。1グループのみ〈3〉があった。

「国際社会の責任」は〈1〉～〈4〉。

「ウクライナ」については〈1〉が多い。中には〈3〉もあった。理由を聞く。

【ロシアの責任】

「ロシアが一番悪いのは今の段階では自明」

「ロシアは禁じ手を使ってしまったのでその責任は圧倒的」

「ロシアは子どもをはじめ多くの市民も意味もなく殺している」

「他国を侵略するという行為がとんでもない」

「自国の利害関係を暴力により達成しようとしている」

「国を勝手に併合しようとしているロシアが問題」

【国際社会の責任】

「危機がせまっているのに国連の対応ができていない」

「国連の構造上の問題であるロシアの拒否権が邪魔をしている」

「ウクライナとロシアの間でもめ事が起こっているのに国際社会は放置した」

「早い段階で両国に働きかけるべき」

【ウクライナの責任】

「内政干渉には抵抗すべきだが、戦争を回避する努力をもっとすべき」

ナレーター：ロシア君は、以前、ソ連君と言いました。ソ連からロシアに代わった段階でウクライナ君をはじめ、リトアニア、ベラルーシ、カザフスタン、キルギスなど 15 人が離れていきました。

ロシア：ソ連からロシアに変わって、仲間がどんどんいなくなりクラスの NATO グループがドンドン増えてきたじゃない！

フランス：それは、自業自得じゃない。ソ連時代からアフガニスタン君をいじめたり、最近では、シリアさんに問題が起こり、いっそうトラブルが広がった。

中国：でもね、2000 年ごろロシア君が「NATO グループに入ってもいい」って言ったこともあったよ。また、2001 年のアメリカ君のアフガン攻撃ではロシア君も協力していた。

日本：ロシア君とアメリカ君が仲良しの時代もあったんだ。

ロシア：でも、NATO グループは 16 人から 30 人になっている。昔の仲間が離れていった。ウクライナの NATO 入りをやめさせなければ僕のグループは脅かされる。最近では隣に座っているフィンランドさんも NATO グループに入ろうとしている。

フランス：もし、ウクライナさんが NATO グループに入っていたら、助ける義務があるから、クラス全体が乱闘になりたいへんなことになっていた。

アメリカ：僕がもめごとに関わると、ホント、クラスが大乱闘になるから側面から援助している。

ドイツ：だから、筆記用具を貸さないとか給食の量を少なくする【経済制裁】とかで反省するように仕向けたんだ。

イギリス：ところで、ドイツさんは、ロシア君との関係も強かったから、別行動をとるって思ってたけど、どうして、僕たちと同じ行動をしたの？

ドイツ：自分のことよりクラスの平和を考えたからに決まってるでしょ（笑）

フランス：今回は国連先生も頑張ったんじゃない？

先生：ロシア君がやってることは間違ってるってクラスに訴えたことかな？

アメリカ：ロシア君含め5人が反対だったね、中国君やインドさんは保留だったけどね。

日本：5人いる学級委員会は機能していない。だって一人でも反対すれば動けないから。学級会では、中国君やインドさんも保留したよね。

中国：(ひとりごと) 僕が保留にまわったのは、ロシア側につくとみんなの様子【国際世論】からしてマイナスだからだ。孤立するのはイヤだ。せっかくみんなを相手にビジネスを展開して成長してきたのに…。ここでは、曖昧な立場がいい。アメリカやEUの力は弱まるかな？これからはアメリカと僕の時代【米中二極体制】になりそうだ。

ナレーション：ロシアは、過去にはおいて他から暴力を受けた経験がいっぱいあります。また、ソ連からロシアになって以降、クラスもグローバル化の時代になりました。しかし、ロシア君をそのシステムに組み込む試みはなかったといえます。そのため、平均寿命の低下、人口と経済の縮小などいろんな問題が起きました。

先生：ロシアへの侵略といえば、モンゴルの支配、フランス・ナポレオン軍、ドイツ、ナチスの侵略などです。

ロシア：(ひとりごと) 僕はドイツ君に痛めつけられた。そういう歴史もあって他人への病的なほどの懐疑心、逆の意味での潜在的な征服欲がある。また、ソ連からロシアになってからいろんなことで困ることがいっぱいできた。日本君とドイツさんがたいへんなときに、学級委員長のアメリカ君が助けてあげたじゃない？

フランス：マーシャルプランだっけ？この二人を何とかしないと、ヤバくなりそうだったからね。

ドイツ：これで日本君はすごく変わった。僕も変わったよ。自慢じゃないけど、今や EU グループの中心だし、あの頃のことをかなり反省している。

ケニア：一言だけ言いたい。私たちアフリカグループの境【国境線】は、私たち自身が引いたものではありません。イギリス君やドイツ君です。一人一人を切り裂く形で引かれたのです。もし私たちが人種、あるいは宗教面での同質を基礎とすることを目指すことを選んでいたら、今以上に、血なまぐさい戦争を繰り広げていたでしょう。私たちは、全大陸的な統一をめざしアフリカ統一機構（OAU）を目指すことを選んだのです。ドネツクおよびルハンスクをウクライナ君から離し、独立させようとする事への強い懸念と反対とを表明します。

先生: ケニアさんの意見は過去も現在も同じようなことを経験しているので重い言葉です。
また、ソ連からロシアになった時に、クラスみんながロシア君の悩みに気づかなかったことも反省しないといけないかな？

ナレーション：クラスではいろんな問題が起こっていましたが、そのことを大きな問題としてとらえることもなく見過ごしてきたことも今回のロシア君のウクライナ君への暴力に繋がったともいえます。

先生：ちょっと言いにくいんだけど、アメリカ君はじめ、イギリス君などもロシア君と同じようなことをしていなかった？

アメリカ：それは、アフガン君のこと？

先生：アフガン君やイラクさんのことだけ。

イギリス：だってアフガン君の時は、アメリカ君に対してひどいことをしたから。
【9.11 テロ】

中国：アメリカ君のアフガン攻撃ではロシア君も協力していたよね。

ドイツ：イラクさんの時は、僕は参加しなかったけど、アメリカ君は反省しなきゃ。

フランス：イラクさんが学校に持ってきてはいけないものを持ってきていると机の中を荒らしまくったよね。

先生：ロシア君の横暴に対して、ずっと放置してきたことだけではなく、アメリカ君グループに対する指導をしてこなかったことがいけなかったかな。

ロシア：僕は何かやったっけ？

アメリカ：よく言うよ。抵抗するチェチェン君への暴力、ジョージアさんやクリミヤさんを無理やりグループに入れたじゃない。シリアさんへはロシア君が余計なことをしてますます混乱した。

ドイツ : ジョージアさんにやったことと、今回のウクライナ君にしたことは似てない？

アメリカ : ロシア君はわずか 5 日間でジョージアさんの持っているものを 20%奪った。

【南オセチアとアブハジアをロシアが支配】

ロシア : EU やアメリカ君の暴力が許され、我々は許されないのかって言いたい！イラクさんへのいじめに対してみんなが抗議しているのにやめなかった。

先生 : 先生含めみんなが過去の暴力を見ないふりをしていたことが間違っていたことだね。暴挙への毅然とした態度が必要だった。それが今回のロシア君の大暴れに繋がったと考えてもいいね。先生も反省します。

ウクライナ : 今回の私に対する暴力はホントひどいです。最も凶悪な犯罪といえます。国際刑事裁判所で犯罪と認めてほしいです。ロシアはクラスノダールの平和を守るための5人の一人だけど、「拒否権」を行使しています。このままだと、自分の身を守るために、きまりやルール【国際法や国際機関】ではなく武器の力だけに頼ることになります。

<グループ討議>

再度「ウクライナ」「ロシア」「国際社会」の責任をどう考えますか？全体を〈10〉として、それぞれの責任を数値化しなさい。また、そう考えた理由を交流しよう。

- * 「ロシア」は〈5〉～〈8〉、「国際社会」は〈3〉～〈4〉、「ウクライナ」は〈1〉～〈3〉が多い。1グループのみ、ウクライナ〈1〉、ロシア〈6〉、国際社会〈3〉と変化のないグループがあった。
- * 同様の数値である理由は「歴史や背景と関係なく現在の時点で悪いことは悪い。過去のことに対して今さら話を蒸し返すことは後出しじゃんけんのようで意味がなくなる。今起きている問題は、今のことで解決すべきである」。
- * 前回の結論と比較し、変化の大きいグループやほとんど変化のないグループを中心に意見を聞く。

グループ A【ウクライナ〈2〉→〈3〉、ロシア〈7〉→〈5〉、国際社会〈1〉→〈2〉】

「国際社会はアメリカの他国への侵略にみられるように過去において前例を作っている。また、早い段階で阻止できなかった。だからといってロシアの侵略は間違っている。ロシアの責任は重い。ウクライナは時代の流れに巻き込まれた被害者であり責任は伴うが、さほど大きくはない。親ロシア派の住民とのトラブルも要因。」

グループ B【ウクライナ〈1〉→〈2〉、ロシア〈7〉→〈5〉、国際社会〈2〉→〈4〉】

「ロシアは言い訳でしかない。他の国が過去に何かしたからといって侵攻が許されるわけではない。しかし、今までのアメリカのイラク戦争などに対して他国が静観していた事実が問題を難しくしている。グローバル化の過程でロシアを冷遇したことも今回関わっている。ウクライナの責任は限りなく〈0〉に近い。」

グループ C【ウクライナ〈2〉→〈3〉、ロシア〈7〉→〈3〉、国際社会〈1〉→〈4〉】

「ウクライナは戦争のリスクは認識できたのに、回避する努力を怠っている。ロシアの過去をふくめたさまざまな背景は理解できるが、国境を武力で変更する行為は許されない。国際社会は、イラク戦争や今回のことも努力は理解できるが、国連の制度上の課題が明らかになった。要は“善悪”と“責任”を区別する必要がある。」

ナレーター：危機はクラスだけではなく学校全体に広がっています。ロシア君やウクライナさんとのやりとり【貿易】がなくなり、エネルギーやいろんなもの【小麦】の不足が続いています。クラスで生活できなくなった人たちが隣のクラスのポーランドやモルドバに逃れ、かなり遠い日本に来る人もいます。

イギリス：イエメンさんやシリアさん、アフガニスタンなど、依然トラブルが残っているたいへんだが、東アフリカ君などはもともと食べるものがなく【干ばつなど】食べ物の取り合いになる可能性がある。いちばん心配なのは、もともと食料自給率が低く、いろんなことで落ち着かない中東さんだ。

ドイツ：暴力をふるわれたウクライナさんは経済活動ができなくなっている。また暴力をおこなったロシアもみんなから経済制裁を受け誰も得をしていないのでは…？

先生：過去のクリミアさんへの暴力の時には、ロシア君への制裁賛成が3割だったのが、今回は6割に増加しています。

日本：ちょっと言いにくいんだけど、ロシア君の要求を部分的に認めれば【東南部を譲りわたす】暴力は収まらないかな？

ウクライナ：ロシアの暴力に対し暴力で対抗したけど、応戦しなかったら大けがをすることもなかったかなとも思う。でも、人間には「譲れない一線」というものがあると思うんだ。

先生：そのことも大事だけど、日本君の言うようなことを許してしまえば、これから暴力によって現状変更が正当化される学校になってしまう。

インド：徹底的な「非暴力」「不服従」ってのはどうかな？ロシアに支配されても（軍も警察も官僚も労働者も）一切協力しないというやり方は？協力がなかったら支配できなくなるのでは？

先生：昔、イギリス君に支配された時のインドさんのやり方だね。そうだと、今回のような惨事になっていなかったかもしれない。

ドイツ：学級委員長のアメリカ君が「ロシアと戦うことはない」「限定的な暴力であれば経済制裁をしない」って言ったのは、ロシアを元気づけることでしかない。

アメリカ：いきなり手の内を明かしてしまったかな？

フランス：いずれにしろ、ウクライナさんをそんな思いにさせるロシアの暴力が悪いことは間違いない。

中国：(ひとりごと) 今回のロシアとウクライナのことはそれなりに教訓にはなった。ロシアのように露骨に暴力をふるうと、みんなが本気で怒ることが理解できた。台湾さんに対することもよく考えなきゃ。

先生：中国さんそれはいいことに気づきました。逆に、今回で一番心配なのは、ロシア君がやったことが、このクラスのスタンダードになることです。また、大きい暴力【核の脅威】が現実的なものになったことです。そうならないため、これからどうすべきか考えてください。

ナレーション：さて、日本君は、クラスのいろんな問題に、主にアメリカ君と協力してきました。しかし、周りの状況を考えると、いつウクライナのようになるかもしれません。中国君と台湾さんの関係などです。しかも、アメリカ君と仲良くしているので、その影響を受ける可能性もあります。

アメリカ：日本君はどうなの？

日本：家族の考えで、暴力はいけないって言われているから、これまでも、いろんなトラブルには側面的なことしかしてこなかった。

先生：家族からも今回のロシア君のことを受けて、これではいけないって言われているのでは？

日本：非核三原則の「持ち込ませず」を見直すってことだね。(小さい声で) 中国君も隣にいるし、中国君と台湾さんとの関係もヤバい。

先生：確か、お父さんは広島出身で非核三原則を守る立場だけど、お爺さんが、見直そうと言ってるんだよね。ホントどうするの？

韓国：今まで何も言わなかったが、中国君って、ずっとイギリス君をはじめ西側のグループからいじめを受けてきたじゃない。そんなこともあって、ずっと弱い立場（第三世界）のリーダーを目指していたのに、ちょっとお金持ちになったからか？逆にいじめる側になってない？

日本：韓国さんが発言したから、僕のことかなって思ったわ。北朝鮮君の韓国さんへの暴力も考えられるね。中国君の尖閣や台湾さんへの侵攻も心配。

先生：いっぱい考えることあるね、日本君どうしますか？

ドイツ : 日本君って、この 70 数年間、暴力を使って他人を攻撃していないし、持っていかれたもの【北方領土】もあるけど、ロシア君とわりにいい関係だったと思う。アジアグループの中では、自由主義に根差したクラスづくり【国際秩序】に向けて、みんなを説得できる立場にあると思う。

日本 : 前向きに考えてみる。何ができるかな？

先生 : 最後にウクライナさん！一言！

ウクライナ : なぜここまでしてロシアと戦うのか。自由と民主主義を失いたくないからです。自分たちの利益だけを追求しているのではない。これは自由と民主主義を守るための人類の普遍的な戦いなのです。私に対して「降伏」を求める声もある。しかし、それは私の主権も人権も保障しないばかりか、暴力によってすべての問題を「解決」するクラス【国際社会】になることになってしまう。クラスが「弱肉強食」ではなく、「ルール」に基づく国際秩序回復の戦いだと思っています。

<賛否討論>

「ウクライナ危機」を受けて、日本はアメリカと「核共有」すべきとの意見がある。
あなたはどのように考えますか？

* 挙手させると「核共有」については半数ずつに分かれる。賛否の意見を聞く。
オープンエンドで議論は終了する。

賛「核兵器を共有すると、そのことで発言力が高まる。この時代“目には目、歯には歯”が、
つまり“核には核”の時代に残念だけどもなってしまった。」

反「核を前提とする社会が自由で平和な社会とはいけない。一度、拡大した武力や政府権
限はより拡大する方向に転じることがあっても縮小することはない。これから唯一の被
爆国である日本が半永久的に核を実質的に保有することは、過去の原爆や非人道的兵器
を肯定する立場になることを意味するので反対。」

賛「共有に賛成である。唯一の被爆国であるが、歴史にとらわれすぎて今の日本国民が危
険さらされるのはおかしい。しかし、核共有を露骨にアピールしたり、強気になって他
国に反抗したりするのはいけない。同じ歴史をくりかえさないために、戦う核ではなく
守る核の共有であるべき。核が使用されても核で返すのはいけない。最終手段であるこ
とを政府、国民が認識していることが大切である。」

反「核共有より日米安保条約の内容を強化し、共同防衛について確認すべきである。唯一
の被爆国であるという立場と核はどうしても攻撃の手段であるというイメージが強い
ので、日本にとって得をすることはない。」

賛「北方領土をはじめ親日国である台湾が危機に瀕し、北朝鮮のミサイルの危うさなど日
本を取り巻く他国との危険性が上がってきており、“非暴力”を主張していても日本が侵
略される可能性がないとは言い切れない。また、アメリカは“世界の警察”的役割を放棄
しているので頼りにならない。」

反「核は威嚇にもなり経済発展を進める中で諸外国とのトラブルにあっても自国の利益を
高めるかもしれない。しかし、私は核共有に反対する。理由は簡潔だ。“日本はそういう

国だと割り切る必要がある”と考えるから。そして、イギリスに侵略を受けてきたインドの“非暴力・不服従”が、かえって征服を及ぼさなかったように“非核三原則”という、一見弱みに見えるものがかえって平和をもたらしているように思える。長期的な絶対平和を優先すべきである。」

反「核をもちこませないという所が日本にとっての“譲れない一線”であってほしいから。核を持ってしまうと追い込まれた時に使ってしまう可能性を 100%否定できないし、悲劇を繰り返すべきではない。」

*ゼレンスキー大統領が日本の国会で演説について紹介する。

・日本に 9 条があることを意識し、武器援助は求めず、国連改革や戦後復興への尽力を要請した。

・演説後、山東昭子参議院議員は「命をかえりみず祖国のために戦う勇気に感動した」と語った。

定期テストや授業中、事前通告し以下の課題について考えさせる。

<パフォーマンス課題>

今回の「ウクライナ侵攻」と、1930年代とが似ていると言われる。
その相似点や相違点について述べよう。

《回答例》

◇ロシアが東部の二つの「人民共和国」を承認し侵略していく過程は、満州事変や満州国建国から日中戦争への歩みと似ている。関東軍の「満鉄爆破」も自作自演だが、ロシアも「親欧米化」の弾圧などと宣伝し同様のことを行っている。ロシアと欧米諸国の対立分断が進んでいるが、満州事変をきっかけに日本が国際連盟を脱退し日独伊三国同盟を結び世界から孤立したことも同様だ。その後のアメリカをはじめとする「石油輸出禁止」の経済制裁も類似している。残念ながら、そのことから日本は真珠湾を奇襲しアジア・太平洋戦争になってしまうが、今のところロシアも世界も、それは核戦争につながるとの認識から回避している。(そうあってほしい)

◇日本は大東亜共栄圏の建設を唱えたことと、プーチンがめざすユーラシア主義による広域支配をしようとしていることも類似点である。

《他パフォーマンス課題》

■ロシアは多くの民間人を殺戮したとして「国際刑事裁判所」に訴えられました。

あなたはどんな判決を出しますか？

■フィンランドが NATO 加盟をしようとしています。あなたはどのように考えますか？

◆学生の感想

・寸劇風であったのでイメージしやすかった。ロシアが完全悪、もし他に悪いところがあるとすればウクライナかなと思っていたが、国際社会、特にアメリカにも非があることを学んだ。しかし、そのことを学んだ上でロシアが最も問題であるという考えは変わらなかった。ロシアとウクライナの戦争をいち早く終わらせるためにも、武力などの力ではなく解決できることを祈るとともに、今日の授業を通して関心が高まった。ニュースや雑誌などを見てみたいと思った。

・善悪の視点と社会的歴史的視点で考え方が変化してくるのがわかった。情報過多の中で何が本当で、何がフェイクかを見極めるうえで多様な視点を持つことで本質を見極めることができると思った。2022年現在起こっている問題だが、以前から繋がって生起していることが理解できた。

・今回6つのグループで議論したが、各グループが異なった意見を持ち相互討論ができ興味深く、授業進行の仕方も参考になった。テレビのような一視点からの報道より、より深く考えられるピースを多く得られると思った。社会問題に興味を持ち自分で考えてみようという生徒が“生まれる”授業であるように思った。

◆授業のポイント

「善悪の視点と社会的歴史的視点で考え方が変化してくるのがわかった」（学生の感想）がポイントだ。社会科教育の役割は「ロシアが完全悪、もし他に悪いところがあるとすればウクライナかなと思っていたが、国際社会、とくにアメリカにも非があることを学んだ」に見られるように、多面的・多角的に社会を考察する見方・考え方を育てることであろう。また、「各グループが異なった意見をもち相互討論ができ興味深く、授業進行の仕方も参考になった」との感想は、他者との「対話的」な授業の有効性を示唆している。そして、「今日の授業を通して関心が高まった。ニュースや雑誌などをみてみたいと思った」は、“学びに向かう人間性や態度”の具体例と言える。学校で学んだことから、社会に対して興味・関心をもち、社会と対峙する資質・能力を育成することが大切である。「寸劇風であったのでイメージしやすかった」との感想は、教材や授業構成そして授業方法論の重要性を指摘している。教師の一方的なレクチャーは排すべきであろう。特に、このような難解なテーマ

では、いわゆる“勉強が苦手な生徒”への配慮が不可欠である。嬉しかったのは、授業終了後、何人かの学生が「今日の授業はめちゃくちゃ面白かった」「誰かに早く話してみたい」「知的に興奮した」「みんなとこんな話しができてよかった」などの一言コメントを述べていたことである。

「世界秩序の危機」がやってきた。大国ロシアのウクライナ侵略が国際社会のスタンダードになることだ。「侵略したもん勝ち」という“弱肉強食”の世界の到来だ。戦争を抑止するための国際社会の枠組みが危機に瀕している。核の脅威も現実的なものになってきた。唯一の被爆国である日本からも「核共有」の声が聞こえる。ゼレンスキー大統領は、ウクライナの抗戦に対して、これは自由と民主主義を守るための人類の普遍的な戦いと言う。

この戦争を終わらせるために何ができるか。それは、この軍事進攻が不法であり、人道的に許されないことを国際社会が繰り返し明らかにしつつ、非軍事的な手段でロシア政府に強い圧力をかけながら、ロシアとウクライナ間の停戦交渉を促すことであろう。

今後も他者との対話を通して、新たな発見があり、自分の認識が揺さぶられ、他者にも伝えたいと思える授業をつくっていきたい。(2022.5.10)

《参考文献》

「NEWS WEEK」2022.3.15

「AERA」2022.3.28

「VOICE」2022 4月号

「HANADA」2022.5月号

「中央公論」2022.5月号

「世界」臨時増刊 2022

「朝日新聞」3月31日他

「週刊ダイヤモンド」2022.3.26

「週刊金曜日」2022.3.11, 2022.4.1

「エコノミスト」2022.3.15, 4.12, 5.3, 10合併号

「潮」2022.5月号

「世界」2022.5月号

「Wedge」2022.5月号

《奥付》

著者：河原和之

表紙画・イラスト・本文デザイン：山本 松澤友里

監修：泉美智子

発行所：株式会社六次元 info@rokujigen.co.jp

《プロフィール》

河原和之（かわはらかずゆき）

中学校教諭、東大阪教育センター指導主事を経て現在立命館大学、大阪教育大学他で非常勤講師を務める傍ら「100万人が受けたい！見方・考え方を鍛える中学公民」（明治図書）ほか著作多数。

山本 松澤友里（やまもと まつざわゆり）

東大阪中学校に5年勤務。退職後、教育書などの企画・編集・イラストレーターとして活動。現在、小・中学校で教育支援員をしている。